

\*題名中に書名が出現する場合は、引用符「」で囲みイタリック体を使用しない。

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り五印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で一二枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

## 編集後記

数字の用法などで編集処理上困ることの多かった横書のワープロ投稿が、このところ減ってきて、ありがたく思っている。

しかし、会員の方々もワープロについてはいろいろな苦労されているのではないかと思う。いまでは個人用のワープロでも第二水準の漢字が打てないものはなくなつたが、それでも医学用語には漢字が足りず、「癩」「瘰癧」「疹瘡」のような尋常な病名まで駄目なのは困りものだ。

もっとも、医学用語でなくても、先日私の書いた文章では「内田百閒」が駄目だったが、小説家では「里見弴」が駄目、有名な作品では「溼東綺譚」が出ない。まさ西域の地名が出ないなどは仕方がないとしても、れっきとした日本の地名である「吐噶喇(とから)列島」も駄目な例に入る。

数字も厄介で、私は原稿では元号を省いた数字は63年のように数字二つを一字分にして紛れやすさを防ぐ習慣だが、白状すると、これがワープロで処理できなくて、おおいに悩んだ。一つ一つの作字は容易だが、全体では膨大な手間になるからである。

数字といえは、私のワープロでは「100」と打って転換キーを押すと「100」、もう一度押すと「1000」、もう一度押すと「百」になる。しかし、「1000」の場合は三回押すと「千」にならずに「一千」になるのが、えてして煩わしい。商用にはともかく、私たちはふつう「一万円札」とは言うが、あととはたんに「千円札」「百円札」としか言わないのである。

(三輪 卓爾)